

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000010		
法人名	医療法人 豊岡会		
事業所名	元町グループホーム(くすのきの家)		
所在地	愛知県豊橋市南大清水町字元町151		
自己評価作成日	令和4年9月8日	評価結果市町村受理日	令和4年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2392000010-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和4年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の思いに力を入れています。回想法により当時の思い出話に会話が弾んだり、個々の趣味の継続として編み物や生け花を楽しみながら余暇時間を充実させています。また、農作業等の園芸療法にも取り組んでおり冬の休耕期に利用者と一緒に畑の計画を立てています。種まきや除草取り、水やり等の役割を持って活き活きと生活されています。毎年「大清水見守りの会」の搜索模擬訓練にも積極的に参加し、地域との連携を大切にしています。防災マニュアルも作成し、地域の認知症の方が避難してこられるように準備も行っていきます。感染対策委員会、身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止委員会を立ち上げ各委員会でそれぞれの取り組みを行っています。元町病棟の看護師による勉強会をはじめ各職員が毎月交代しながらの勉強会や研修にも全員参加できるような複数回行うなど職員の成長にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や住宅が広がるのどかな場所に事業所が位置し、母体である総合病院が隣接している。「一人ひとりの人生が輝くように」を理念に、その人なりの個性や生活スタイルを大切にしている。その人ができることを自信をもって生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアに繋げるように心がけている。地域でのお祭り、中学校の職場体験の受け入れや小学校の認知症サポーター講座の講師、喫茶店でのギャラリー展、多世代カフェ「もつまち集いカフェ」、家族参加の呼びかけをしての遠出外出など今年もコロナ禍で踏み止まってる。「校区の行方不明者搜索訓練」や作品展への出店などは、積極的に協力している。恒例となっている「RAN伴」は、出発式を入居者と共に行い、ランナーの職員を激励して送り出し、参加した時の感激や躍動感などを忘れないようにしている。また、地域と「つながり続ける事」を目的とし、「孤立しない社会の創造」を目指し「生きることに」価値を見出すために伴走型支援にも取り組んでいる。日々の介護記録の閲覧システムを導入して4年目になるが、家族から高い評価を得ている。入居者は職員と共に、調理や掃除などの家事仕事や畑仕事、趣味の習字や絵画、雑巾縫いなどをして培ってきた経験を生かしている。明るく開放的なリビングで、皆と一緒にゲームをしたり、テレビを見たりして家庭の居心地よさを味わいながら楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を職員が理解し思念に基づいて支援をしている。勉強会を行い意識の共有を図った。今後も勉強会を行っていく。	「一人ひとりの人生が輝くように」の事業所理念を玄関に掲げ、理念の実現のために、職員が大切にすべきことを「8つの心得」としてまとめ、日常の行動の指針としている。また、年間の研修スケジュールの中に位置付け、各月の担当職員が中心となり生活支援の勉強会や理念に基づく支援について話し合いを持ち、日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの為、地域の行事が中止になり利用者の参加が出来なかった。職員が代表で今後も地域交流が続けられるよう地域の会議などに参加し交流をしている。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。今年もコロナ禍ではあるが、少しずつ地域行事も再開され、入居者の参加は難しいが職員の参加により交流を継続している。今年度は、「RAN伴」の出発式や地域の花火の見物をしたり、長年続いている小学生との交流会には入居者と共に小学校に向きお互いの願いが込められた七夕の笹飾りを交換している。また、地域と「つながり続ける事」を目的とし、「孤立しない社会の創造」を目指し「生きること」に価値を見出すために伴走型支援にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録送付などを通じて、自治会長その他の方々にホームの現状を書面で報告。また、伴走型支援にも取り組みだしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面での報告を通して自治会長及び市、地域包括支援センター、民生委員、家族様などから情報共有、意見を頂戴し、ケアの向上、ホームの運営に活用しています。	今年度も引き続きコロナ禍により書面開催としている。家族、自治会長、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員には議事録を郵送している。年6回開催の内、1回は家族会と合同で開催しているが、現在は踏み止まっている。事業所の運営状況や活動報告、今後の予定、入居者状況などを報告し、内容について意見を聴取し、頂いた意見はサービスの向上や運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や取り組みの会議等でホームの実績を積極的に伝え協力関係を築くよう努力しています。	介護保険更新の手続きや申請書類、運営推進会議録などは郵送し、市の担当者とは電話やメールで情報交換をしたり入所事例などで指導や助言を得るなど良好な協力関係を築いている。認知症啓発イベントの「RAN伴」に代表職員が参加し施設で出発式を行っている。地域包括主催「行方不明者捜索訓練」の実施に積極的に協力し、継続的な関係性を築いている。また、認知症キャラバンメイト育成事業の講師として出向いたり、作成した資料の貸し出しも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足し、委員会を通じて身体拘束の現状の共有や勉強会を行い拘束解除に向けて毎月検討している。	身体拘束廃止委員会を発足し委員を中心に3か月に1回テーマを決め勉強会で拘束についての視点や内容を分析したりして、拘束が疑われる行為について話し合い、正しく理解するようにしている。職員は、日々のケアの中で身体拘束やスピーチロックをしないことを周知し、理解を深めるようにしている。ユニット間の行き来や玄関外の椅子で外気に触れるなど、自由な生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を発足し毎月のアンケートで職員の意識向上を図り委員会の度、勉強会を行い学びあえる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を通して、学びあう機会を設けたり、毎月2回開催されるユニット会議で話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明・契約はもちろん、入居後は担当者会議の場やその都度納得のいくよう説明をし、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と話す機会を持ち、要望が叶えられるよう努めている。家族の面会時や電話連絡など家族とホームとが意見交換しやすい環境づくりに努めている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、意見や要望を記録し、職員間で共有し運営に反映させている。家族にはHitomeQ(ひとめく)の機能を利用して、介護記録を毎日配信し、質問や相談がある場合は、随時対応している。また、家族からは面会時や電話、メールなどを利用して意見や要望を聞き、ケアや業務の改善に役立っている。「元町グループホーム笑顔だより」を発行し、家族に安心を届けている。また、いつでも訪問しやすい環境や雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議での意見交換を行っている。職員からの意見、提案しやすいよう提案書を導入して、提案や意見を聞く機会を設けている。	日常から話しやすい雰囲気作りを心掛け、職員からの意見や提案は提案書に記載し、業務改善に役立っている。毎月のユニット会議や職員会議を意見交換の場としている。職員が本部と直接メールで意見が言える「Niコラボ」システムを導入し業務に反映させている。また360度評価を導入し、管理者だけでなく職員同士が、調査項目に基づき観察し、評価している。得られた結果は気づきと自己変革に役立っている。管理者とは年2回の面談を行い、提案や意見、悩みなどを聞き、職場環境や処遇などに反映させ、より良いケアに繋げるよう取り組んでいる。また、働きやすい職場を目指すためにパワハラアンケート調査も取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体として実績や取り組み、能力による評価に応じ、それに見合った給与を受け取れる仕組みになっている。また、半期ごとに面談を行い職員の意見を聞き向上心を持って働く環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内交換研修の実施や外部開催の研修へも参加する機会を設け取り組んでいる。施設内研修体制を確立し研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの合同作品展の参加や交換研修を行うなど、職員同士が交流できるよう努めている。、他施設との意見交換などでサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向に沿ったサービスが導入できるように入居前に面談し、本人や家族から困っていることや不安なこと、要望などの情報の収集をし、安心して暮らせる環境づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様立会いのもと本人のアセスメントを行う事で入居後スムーズな生活が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見・意向等をしっかり聞いた上で必要な支援を見極め、他関係者の協力も含めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として敬意を持って共に生活している。また、その為の研修も実施している。一方的な支援にならないよう自己の選択を尊重するよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、一時中止しているが、施設の取り組みやイベントなどすべてにおいて家族が自由に参加できる姿勢を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会など関係が継続できるように支援している。面会を花壇越しと距離をとって頂いているが、いつでも誰でも気軽に面会できるようにしている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までの生活や入居者一人ひとりのルーツをたどり再現できる支援を目指している。コロナ禍で家族や友人、知人の訪問に規制はしていないが、安全を確保しながら窓越しの面会としている。コロナの状況を確認の上、家族とお墓参りや自宅で過ごすなど、できる事から再開している。また、施設内で春祭りや秋祭り、餅つきや門松づくりなど季節の行事で昔を懐かしむ取り組みや趣味の習字や絵画、雑巾作りや家事仕事、畑仕事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の橋渡しをし、コミュニケーションが円滑になるよう努めている。また、座席の配置にも気を配っている。利用者様同士が協力しながら楽しめる環境作りにも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても家族とのコミュニケーションに努め、いつでも相談に乗れるような関係性を築けるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表の活用や日々のコミュニケーションの中から本人の意向や希望を汲み取る努力をしている。本人の満足に繋がる様援助している	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃さないように心がけ、日常のさりげない会話や表情など、ケアの中で感じ取った情報を記録し、職員全員で共有して入居者の満足につながる支援に努めている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり、家族や親族から話を聞いたりして一方通行にならないよう配慮して、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の活用や、ご家族様や親族、本人様との会話から本人様の生活歴や趣味の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態観察を行い、変化等については申し送りにて職員周知を行い心身状態などの情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、ケア担当、他職員が意見交換し、本人・ご家族様の意向を取り入れ、目標達成できているか3か月ごとの見直し・検討を行っている	入居者の介護計画の更新月に合わせケア担当者が介護記録や申し送りなどから情報収集し、モニタリングを行っている。その後、生活機能を向上させるためのアセスメントと目標を作成し、全職員で共有している。3か月毎に目標達成の確認やチェック表による評価とアセスメントを重ね、担当者会議で話し合い入居者や家族、医師や看護師の意見も取り入れて見直し検討をしている。半年ごとに現状に即した介護計画を作成している。状況に応じて随時の見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り、話し合いの中から情報収集を行い、モニタリングをし、プラン実施や見直しなどに活かしている。ケアチェック表を使い、日々のケアの実施状況についても職員が把握しやすい様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ生まれるニーズに対し、出来る限り柔軟に対応できるよう職員間の意識向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、人との接近を避け、地域の神社や公園などに弁当を持って出かけたりし、できることをできる範囲で楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診や年に一度の健康診断実施、歯科往診、休日夜間等の緊急受診など協力医療機関との連携に加え、必要に応じ近隣の専門科への受診ができるよう体制を作っている	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いているが提携医に全員変更している。内科は月1回、併設の病院の受診と入居者の誕生日に健康診断を実施している。毎月訪問歯科による往診と歯科衛生士による口腔ケアが受けられる。言語聴覚士、作業療法士や理学療法士により適切なりハビリが受けられるよう支援している。他科の受診は職員や家族が対応し、受診結果などの情報を共有している。週1回提携医の看護師が健康管理や相談を受けている。緊急時は24時間体制で看護師や提携医による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する病院看護師の週1回程度の定期訪問による状態確認や、状態変化の都度、併設病院に相談を行い対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、職員が伺い本人の様子を見に行ったり、看護師から情報を得たりし、情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期より家族との意識共有に努め、面会時や担当者会議などで定期的に意向の確認を行っている。上司や職員とも話し合い、本人の心身状態に合わせてチームで支援している。必要に応じ、施設入居の提案や情報提供も行っている。	入居時に重度化や終末期、看取りについて家族に方針等を説明した上で意向や希望を確認し、家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、入居者や家族に希望を再確認し可能であれば看取りも受け入れている。併設の病院の医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者にとって最善の援助ができるように努め可能な限り希望に添うよう支援をしている。また、管理者がメンタルケア心理士の資格を持ち、職員である前に人として仕事に取り組むなどその都度職員に話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や実習に参加している。急変時のマニュアル確認を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の併設病院との合同防災訓練の実施に加え施設単独の避難訓練をしている。また、訓練マニュアルを作成し、全職員が訓練に参加できるように定期的にいろいろな想定での避難訓練を行っている	年2回、併設病院と合同防災訓練を消防署員の協力の下、火災や地震を想定した避難訓練と消火訓練を夜間の職員体制で実施している。また毎月、事業所独自で様々な災害を想定した避難訓練を行っている。問題点は職員で話し合い改善に努めている。備蓄品のリストを作成し常時点検している。各居室には水と車いすを保管し、食料などは3日分が各フロアや事務所に確保されている。玄関には、緊急時の非常持ち出しリュックと物品が収納されている。地域には認知症の家族の避難所として受け入れ可能である事を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々に対する尊厳を大切にし、プライバシーへの配慮をし、ケアにあたっている。言葉遣いに関してはユニット会議や職員会議の度に注意を促している。必要に応じて個別に指導する事もある	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。職員は日常のケアの中で「8つの心得」を意識しながら支援に努め、会議の度に言葉遣いなどを見直し、職員の知識や技術の向上に努めている。また、その場で注意し合える職員の関係性作りにも取り組んでいる。入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮し、人間関係にも注意を払った言葉使いや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と個別に話せる機会を持ち、本人様の思いや希望を聞き出せるようにしている。常に自己決定が出来るように配慮した声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、出来る限り利用者様のペースに合わせた対応し、本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や服装の好みなど本人の希望に沿い、その人の好みに合ったお洒落が出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週3回の手作り昼食では利用者の意見を取り入れた献立を実現している。食事づくりや準備、片付けなども職員と一緒に取り組んで頂いている。	夕食は病院の管理栄養士が献立し調理しているが、朝食と昼食は、入居者と職員で希望のメニューを取り入れ、手作りしている。現在はコロナ禍により食材の調達が難しいため、週の3日間のみ業者の食材を利用している。菜園で収穫した野菜は食卓に彩を添えている。調理や準備、後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒に手際よく行っている。中華のテイクアウトや入居者の希望の寿司を取ったり、「元町喫茶」を施設内で開いたりして食を楽しむための工夫をしている。家族などから差し入れられた野菜でBBQをしたり、鬼まんじゅうやおはぎなど手作りおやつも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態を把握し、日々の食事量・水分量の確認や毎月体重測定をしている。併設病院の管理栄養士に相談できる体制も築いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。義歯の状態や口腔内の観察も常に行い、保清に努めている。訪問歯科による毎月の訪問でのケアに加え歯科医師や歯科衛生士に口腔指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個々の排泄周期を把握し、失禁の軽減に努めている。また、安易なおむつ使用は行わず、トイレでの排泄を可能な限り行っている	個々の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導を行っている。日中は布パンツやリハビリパンツで過ごし、最後まで自力でトイレで排泄に取り組んでいる。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。また、夜間のみポータブルを利用することで、安心して排泄ができるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や日々の体操への参加を促している。排便記録をつけ、便秘が続く方は食事や水分、内服等について随時併設病院に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り対応するようにしているが、毎日の入浴や夜間の入浴は出来ていない	入浴は3日に1度を目安にしているが、希望があれば毎日入浴できる環境を整えている。浴室が広く、特殊なミストシャワーの利用やストレッチャーでの入浴が可能となっている。入浴は3時半から5時を目安に希望の時間に対応している。季節を感じる柚子湯や菖蒲湯、入浴剤などを利用して湯の香りや風情を楽しんでいる。足ふきマットの交換や冬場のヒートショックに配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息など本人の希望や意思を尊重し、心身の健康にも配慮している。また、夜間も気持ちよく眠れるよう日々の生活にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認や服薬を行っている。薬や病気については、併設病院の薬剤師や看護師等にすぐに相談確認が行える環境が出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の生活歴や趣味を把握し、畑仕事や調理など、本人が楽しみながら生活できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	各々の希望を汲み取り、家族の協力も得ながら一時帰宅や墓まいりなど、出来る限り希望に添えるように努めている	日常的に散歩に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には花壇や菜園の手入れをしたり、野菜の収穫などを通して四季の移ろいを感じながら外気に触れる機会を大事にしている。今年も引き続きコロナ禍ではあるが、状況の確認をしながら人の少ない場所を選び少人数で、こいのぼりや曼珠沙華の花を見に出掛けるなど、入居者の希望をくみ取り、なるべく戸外に出掛けられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物での支払いなどを行って頂いたり、外出時でのお土産の購入など、希望者はお金を渡し自分で好きなものを購入して頂いている。コロナ禍での買い物は実現できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族へ電話連絡する事もあり、心の安定に繋げている。年賀状など、個人の希望に沿ってやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を考慮し、毎月壁紙作りを行っている。湿温度計を設置し、湿度と気温の管理をしている	居間と食堂はワンフロアで、入居者の様子が一目で見渡せ、明るく風通しの良い生活空間となっている。各ユニットの個性を生かしながら、干支の作品や季節を感じる手作り作品を壁面にさりげなく飾り、華美にならず大人の雰囲気のある落ち着いた居間となっている。アイランドキッチンでは入居者と調理の準備や後片付けなど一緒に行っている。余暇の時間には、ソファでくつろいだりテレビを見たり、談笑したりしてのんびり過ごしている。また、加湿器や空気清浄機を整え感染症の予防や温度と湿度の管理をして過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や庭に長椅子を設ける事で、くつろぎのスペースやコミュニケーションの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を居室に置いたり、趣味で手作りの作品なども飾っている。入居時に昔のアルバムを持ってきて頂くようお願いもしている	居室入り口には表札や季節感のある個性豊かな手作り作品が品よく飾られている。部屋の寝具は家庭用ベットや介護用ベット、カーペットを敷いてマットレスで休まれる等、その方に応じた居室環境となっている。部屋には使い慣れた筆筒やテレビ、音楽機器など自宅で使用していたものを持ち込み安心できる環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせる配慮をしている。ベットでも布団はきちんとたたみ、生活のメリハリをつけるようにしたり、清掃を自身で行い清潔感のある部屋で自立した生活が送れるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きくし、分りやすくする事で、場所の配置が理解しやすい工夫をしている。(居室の扉に目印の物を付ける等)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000010		
法人名	医療法人 豊岡会		
事業所名	元町グループホーム(つつじの家)		
所在地	愛知県豊橋市南大清水町字元町151		
自己評価作成日	令和4年9月8日	評価結果市町村受理日	令和4年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000010-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和4年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の思いに力を入れています。回想法により当時の思い出に会話が弾んだり、個々の趣味の継続として編み物や生け花を楽しみながら余暇時間を充実させています。また、農作業等の園芸療法にも取り組んでおり冬の休耕期に利用者と一緒に畑の計画を立てています。種まきや草取り、水やり等の役割を持って活き活きと生活されています。毎年「大清水見守りの会」の搜索模擬訓練にも積極的に参加し、地域との連携を大切にしています。防災マニュアルも作成し、地域の認知症の方が避難してこられるように準備も行っていきます。感染対策委員会、身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止委員会を立ち上げ各委員会でそれぞれの取り組みを行っています。元町病棟の看護師による勉強会をはじめ各職員が毎月交代しながらの勉強会や研修にも全員参加できるような複数回行うなど職員の成長にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や住宅が広がるのどかな場所に事業所が位置し、母体である総合病院が隣接している。「一人ひとりの人生が輝くように」を理念に、その人なりの個性や生活スタイルを大切にしている。その人ができることを自信をもって生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアに繋げるように心がけている。地域でのお祭り、中学校の職場体験の受け入れや小学校の認知症サポーター講座の講師、喫茶店でのギャラリー展、多世代カフェ「もとまち集いカフェ」、家族参加の呼びかけをしての遠出外出など今年もコロナ禍で踏み止まってる。「校区の行方不明者搜索訓練」や作品展への出店などは、積極的に協力している。恒例となっている「RAN伴」は、出発式を入居者と共に行い、ランナーの職員を激励して送り出し、参加した時の感激や躍動感などを忘れないようにしている。また、地域と「つながり続ける事」を目的とし、「孤立しない社会の創造」を目指し「生きることに」価値を見出すために伴走型支援にも取り組んでいる。日々の介護記録の閲覧システムを導入して4年目になるが、家族から高い評価を得ている。入居者は職員と共に、調理や掃除などの家事仕事や畑仕事、趣味の習字や絵画、雑巾縫いなどをして培ってきた経験を生かしている。明るく開放的なリビングで、皆と一緒にゲームをしたり、テレビを見たりして家庭の居心地よさを味わいながら楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を職員が理解し思念に基づいて支援をしている。勉強会を行い意識の共有を図った。今後も勉強会を行っていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの為、地域の行事が中止になり利用者の参加が出来なかった。職員が代表で今後も地域交流が続けられるよう地域の会議などに参加し交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録送付などを通じて、自治会長その他の方々にホームの現状をし書面で報告。また、伴走型支援にも取り組みだしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面での報告を通して自治会長及び市、地域包括支援センター、民生委員、家族様などから情報共有、意見を頂戴し、ケアの向上、ホームの運営に活用しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録や取り組みの会議等でホームの実績を積極的に伝え協力関係を築くよう努力しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足し、委員会を通じて身体拘束の現状の共有や勉強会を行い拘束解除に向けて毎月検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を発足し毎月のアンケートで職員の意識向上を図り委員会の度、勉強会を行い学びあえる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を通して、学びあう機会を設けたり、毎月2回開催されるユニット会議で話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明・契約はもちろん、入居後は担当者会議の場やその都度納得のいくよう説明をし、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と話す機会を持ち、要望が叶えられるよう努めている。家族の面会時や電話連絡など家族とホームとが意見交換しやすい環境づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議での意見交換を行っている。職員からの意見、提案しやすいよう提案書を導入して、提案や意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体として実績や取り組み、能力による評価に応じ、それに見合った給与を受け取れる仕組みになっている。また、半期ごとに面談を行い職員の意見を聞き向上心を持って働く環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内交換研修の実施や外部開催の研修へも参加する機会を設け取り組んでいる。施設内研修体制を確立し研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの合同作品展の参加や交換研修を行うなど、職員同士が交流できるよう努めている。、他施設との意見交換などでサービスの向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向に沿ったサービスが導入できるように入居前に面談し、本人や家族から困っていることや不安なこと、要望などの情報の収集をし、安心して暮らせる環境づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様立会いのもと本人のアセスメントを行う事で入居後スムーズな生活が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見・意向等をしっかり聞いた上で必要な支援を見極め、他関係者の協力も含めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として敬意を持って共に生活している。また、その為の研修も実施している。一方的な支援にならないよう自己の選択を尊重するよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、一時中止しているが、施設の取り組みやイベントなどすべてにおいて家族が自由に参加できる姿勢を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会など関係が継続できるように支援している。面会を花壇越しと距離をとって頂いているが、いつでも誰でも気軽に面会できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の橋渡しをし、コミュニケーションが円滑になるよう努めている。また、座席の配置にも気を配っている。利用者様同士が協力しながら楽しめる環境作りにも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても家族とのコミュニケーションに努め、いつでも相談に乗れるような関係性を築けるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表の活用や日々のコミュニケーションの中から本人の意向や希望を汲み取る努力をしている。本人の満足に繋がる様援助している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の活用や、ご家族様や親族、本人様との会話から本人様の生活歴や趣味の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態観察を行い、変化等については申し送りにて職員周知を行い心身状態などの情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、ケア担当、他職員が意見交換し、本人・ご家族様の意向を取り入れ、目標達成できているか3か月ごとの見直し・検討を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り、話し合いの中から情報収集を行い、モニタリングをし、プラン実施や見直しなどに活かしている。ケアチェック表を使い、日々のケアの実施状況についても職員が把握しやすい様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ生まれるニーズに対し、出来る限り柔軟に対応できるよう職員間の意識向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、人との接近を避け、地域の神社や公園などに弁当を持って出かけたりし、できることをできる範囲で楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診や年に一度の健康診断実施、歯科往診、休日夜間等の緊急受診など協力医療機関との連携に加え、必要に応じ近隣の専門科への受診ができるよう体制を作っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する病院看護師の週1回程度の定期訪問による状態確認や、状態変化の都度、併設病院に相談を行い対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、職員が伺い本人の様子を見に行ったり、看護師から情報を得たりし、情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期より家族との意識共有に努め、面会時や担当者会議などで定期的に意向の確認を行っている。上司や職員とも話し合い、本人の心身状態に合わせてチームで支援している。必要に応じ、施設入居の提案や情報提供も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や実習に参加している。急変時のマニュアル確認を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の併設病院との合同防災訓練の実施に加え施設単独の避難訓練をしている。また、訓練マニュアルを作成し、全職員が訓練に参加できるように定期的にいろいろな想定での避難訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々に対する尊厳を大切に、プライバシーへの配慮をし、ケアにあたっている。言葉遣いに関してはユニット会議や職員会議の度に注意を促している。必要に応じて個別に指導する事もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と個別に話せる機会を持ち、本人様の思いや希望を聞き出せるようにしている。常に自己決定が出来るように配慮した声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、出来る限り利用者様のペースに合わせた対応し、本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や服装の好みなど本人の希望に沿い、その人の好みに合ったお洒落が出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週3回の手作り昼食では利用者の意見を取り入れた献立を実現している。食事づくりや準備、片付けなども職員と一緒に取り組んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態を把握し、日々の食事量・水分量の確認や毎月体重測定をしている。併設病院の管理栄養士に相談できる体制も築いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。義歯の状態や口腔内の観察も常に行い、保清に努めている。訪問歯科による毎月の訪問でのケアに加え歯科医師や歯科衛生士に口腔指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個々の排泄周期を把握し、失禁の軽減に努めている。また、安易なオムツ使用は行わず、トイレでの排泄を可能な限り行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や日々の体操への参加を促している。排便記録をつけ、便秘が続く方は食事や水分、内服等について随時併設病院に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り対応するようにしているが、毎日の入浴や夜間の入浴は出来ていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息など本人の希望や意思を尊重し、心身の健康にも配慮している。また、夜間も気持ちよく眠れるよう日々の生活にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認や服薬を行っている。薬や病気については、併設病院の薬剤師や看護師等にすぐに相談確認が行える環境が出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の生活歴や趣味を把握し、畑仕事や調理など、本人が楽しみながら生活できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	各々の希望を汲み取り、家族の協力も得ながら一時帰宅や墓まいりなど、出来る限り希望に添えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物での支払いなどを行って頂いたり、外出時でのお土産の購入など、希望者はお金を渡し自分で好きなものを購入して頂いている。コロナ禍での買い物は実現できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族へ電話連絡する事もあり、心の安定に繋げている。年賀状など、個人の希望に沿ってやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を考慮し、毎月壁紙作りを行っている。湿度計を設置し、湿度と気温の管理をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や庭に長椅子を設ける事で、くつろぎのスペースやコミュニケーションの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を居室に置いたり、趣味で手作りした作品なども飾っている。入居時に昔のアルバムを持ってきて頂くようお願いもしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きくし、分りやすくする事で、場所の配置が理解しやすい工夫をしている。(居室の扉に目印の物を付ける等)		